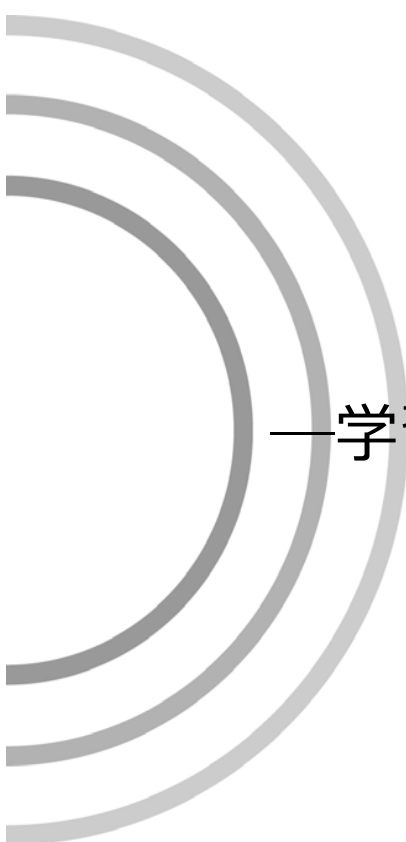


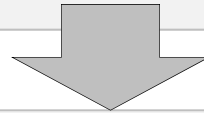


小中学生のICT利用のライフスタイル研究

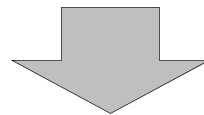
—学習のためのネット利用と関連するICT利用やライフスタイル—

飽戸 弘 (東京大学名誉教授)
吉良 文夫 (NTTドコモ モバイル社会研究所)
○栗原 俊介 (NTTドコモ モバイル社会研究所)

・スマホの普及に伴い、毎日YouTubeを利用する子どもは小学1年から3割を超えており中学生になると6割程度に達している^{[1][2]}。スマホやインターネットが子どもに浸透する中で、その影響を明らかにすることが求められている。



・スマホ利用の低学年化、インターネット利用時間の拡大などの実態を踏まえ、小中学生のICT利活用が、子どもの生活に与えている影響を明らかにすることを目的に、**関東1都6県の小中学生の親子に調査を実施。**



・本稿では、特に**学習のためにインターネットを利用する**小中学生の、ICT利用状況やライフスタイルへの関連性を数量化理論第Ⅱ類で分析・考察をした結果について報告。

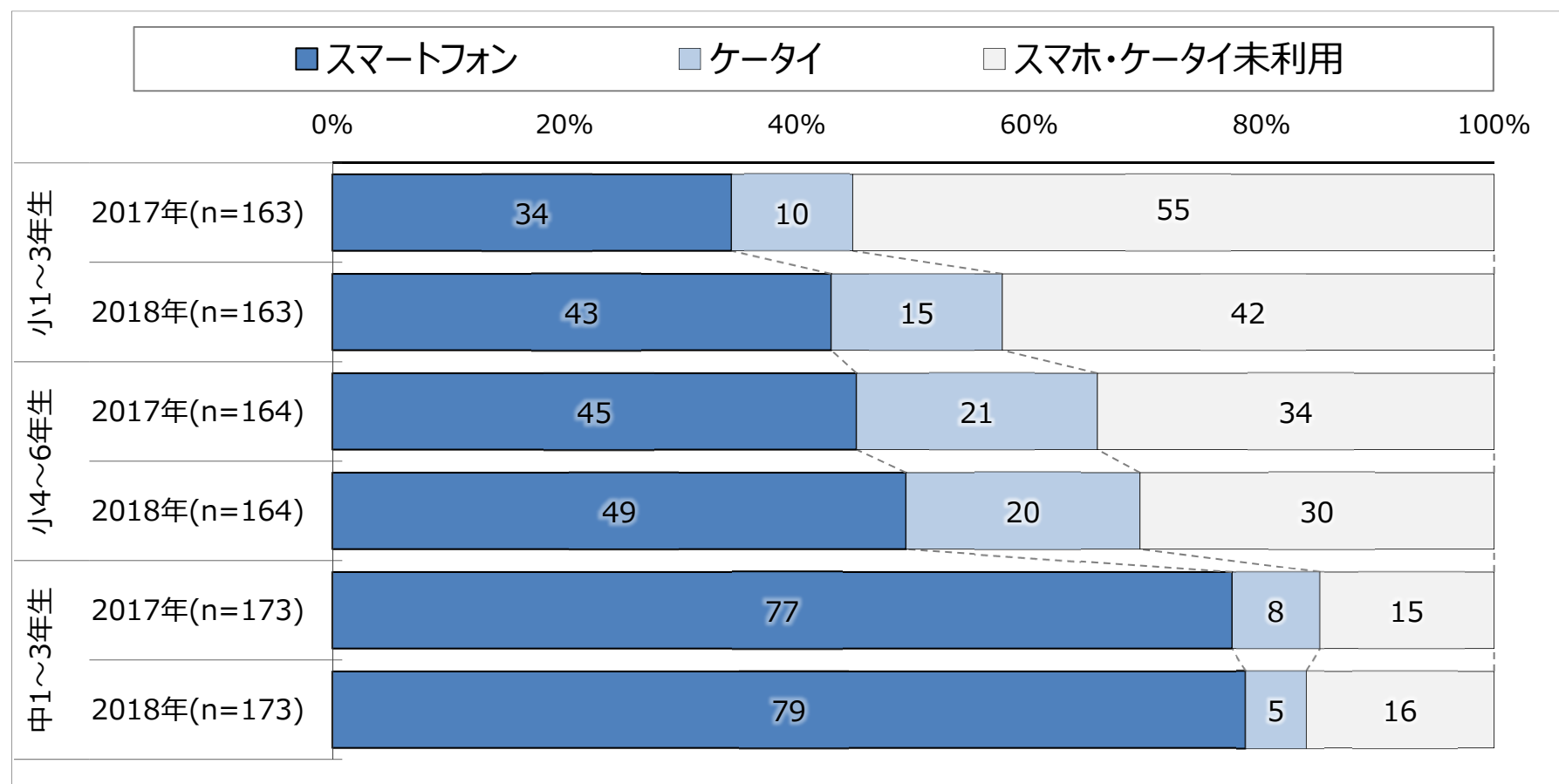
[1]モバイル社会研究所子ども調査レポートNo.10 <http://www.moba-ken.jp/project/children/kod_ict_no10.pdf> (2019年2月18日)

[2]飽戸 弘・鈴木孝幸樹・栗原俊介(2018). ケータイ利用のライフスタイル研究(1),日本行動計量学会 第46回大会抄録集, 316-319.

1. 研究背景と本報告の概要 ―スマホ利用率の推移―

3/10

- ・スマートフォン利用率(家庭で共有しているスマホ利用を含む)は、小学生では3割～4割、中学生では約8割に拡大。
- ・中学校入学を機にスマートフォン利用率が拡大。



注1：関東1都6県在住の小中学生の子どもを持つ保護者が回答。

注2：家族などで共有しているものを含め、子どもが利用している機器の有無を保護者が回答。

注3：「スマホ」は回線契約をしているスマートフォン、いわゆる格安スマホ、キッズスマホ、回線契約なしのスマートフォンを含み集計。

注4：スマートフォンとキッズケータイ・フィーチャーフォンをどちらも利用している場合は、スマートフォン利用として集計。

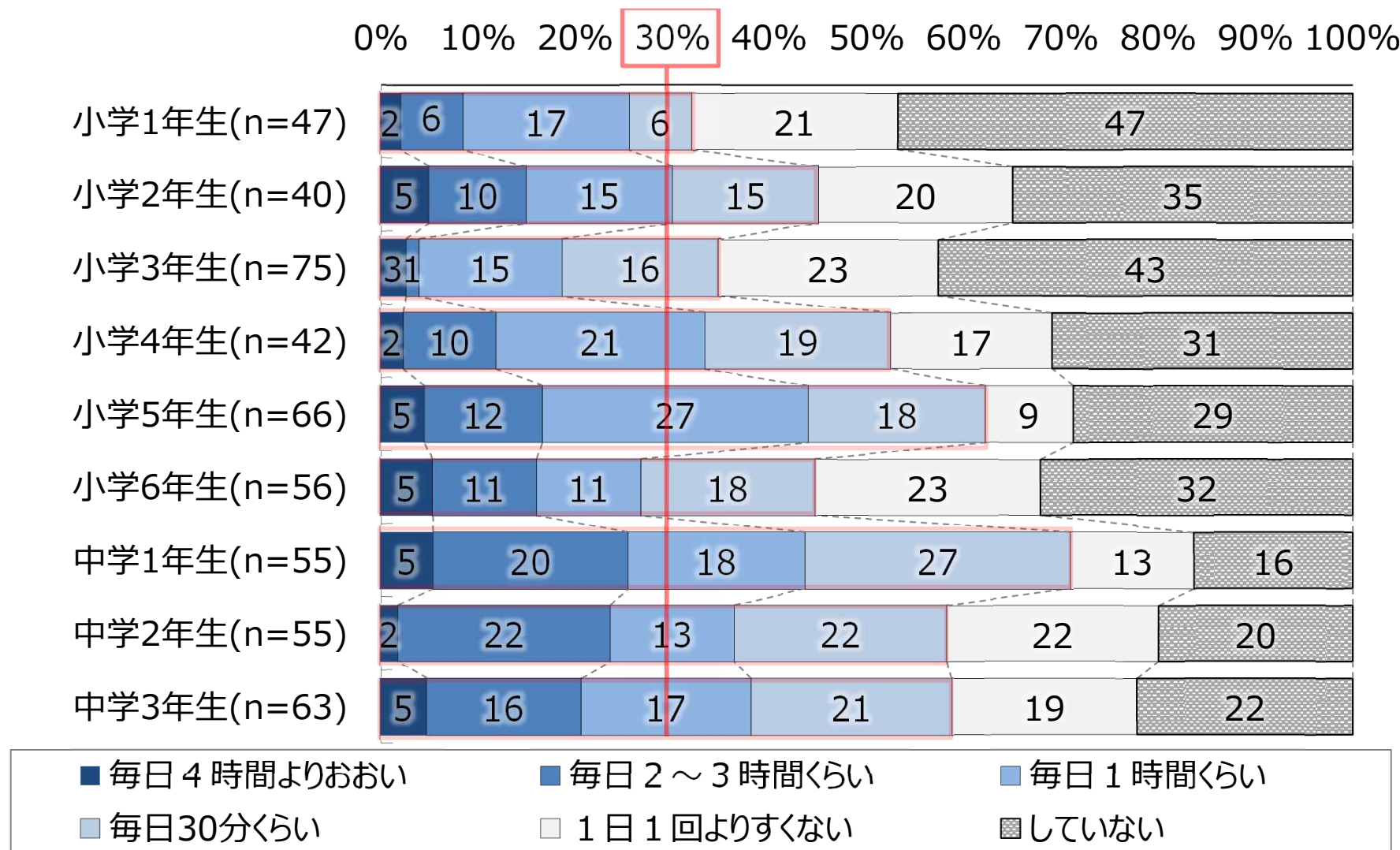
注5：「ケータイ」は、スマートフォン以外のフィーチャーフォンやキッズケータイを指す。

出所：子どものケータイ利用に関する調査2017(訪問面接),2018(訪問留置)

1. 研究背景と本報告の概要 —スマホ利用率の推移—

4/10

・毎日YouTubeを見る小中学生はいずれの学年でも3割を超える。



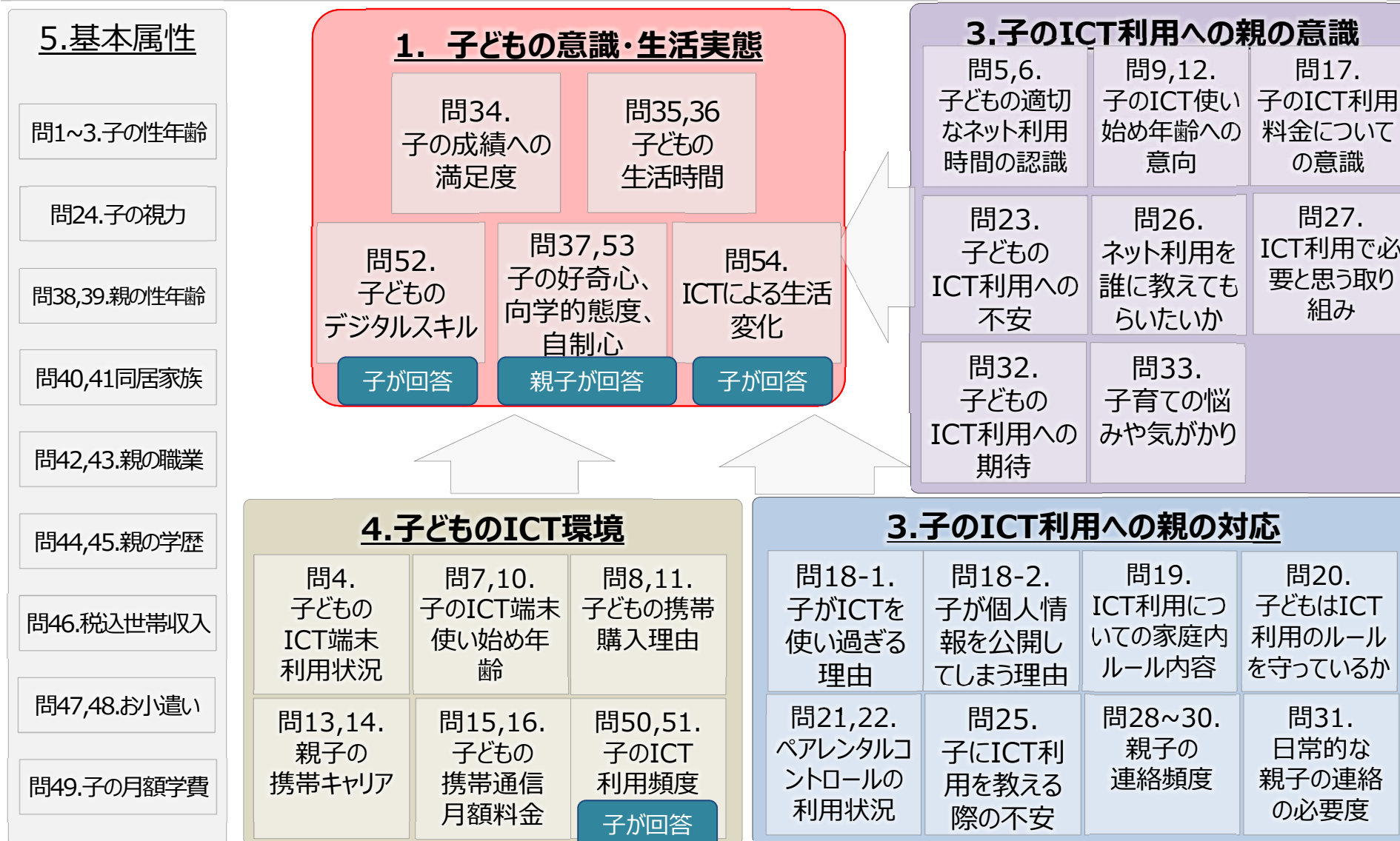
注：関東1都6県在住の小中学生が回答。

出所：子どものケータイ利用に関する調査2018(訪問留置)

調査の実施方法は以下

- ・調査方法：訪問留置調査(2018 年9 月に実施)
- ・調査対象：関東(1 都6 県)在住の小中学生とその保護者500世帯
- ・調査内容：ライフスタイル変数、ICT 利用状況、基本属性
- ・標本抽出法：層化二段抽出[クォータサンプリング法(都市規模別性年代)]
母集団(H27年国勢調査)の人口に基づき、7～15歳の都市規模別人口構成比に応じて、町丁目(50地点)を比例配分して抽出し、抽出された町丁目において、7～9歳、10～12歳、13～15歳の都市規模別性年代人口構成比に応じて個人を割り当て、該当者をランダムウォーク法で抽出

関東1都6県の小中学生とその保護者500組への訪問留置調査を実施。



子どもの向学的態度に与える影響が大きい変数として、**①ライフスタイル変数、②ICT利用状況、③基本属性**を候補に選定。

⇒数量化理論第Ⅱ類で相互関係を計量化。

①ライフスタイル変数

親子間の対
面での会話
頻度

親子間のメッ
セージ頻度

習い事、部
活、塾の通い
方

②ICT利活用状況

YouTube
利用頻度

利用している
ICTデバイス

オンラインゲーム
利用頻度

③基本属性

性別・学生

**相互関係を
計量化**

(数量化理論第Ⅱ類
を利用)

**[外的基準]
学習のためのイン
ターネット利用**

数量化理論第Ⅱ類を用いてモデルを作成した結果、下記のモデルが作成された。相関比 η は0.57, 判別率の中率はマハラビス汎距離では78.7%となった。

表 学習のためのネット利用有無に対する偏相関係数

No.	アイテム名	[偏相関係数, 説明変数の分類]
1	子どもの学年・性別	[0.35, 基本属性]
2	利用端末の組み合わせ	[0.20, ICT利用状況]
3	親子間のメッセージ頻度	[0.17, ライフスタイル変数]
4	YouTube利用頻度(子が回答)	[0.16, ICT利用状況]
5	放課後の活動	[0.11, ライフスタイル変数]
6	オンラインゲームをする時間(子が回答)	[0.11, ICT利用状況]
7	親子間の対面の会話頻度	[0.06, ライフスタイル変数]

外的変数との相対的な関連性の強さの順序は、

- ①「子どもの学年・性別」
- ②「利用端末の組み合わせ」
- ③「親子間のメッセージ頻度」
- ④「YouTube利用頻度(子が回答)」であった。

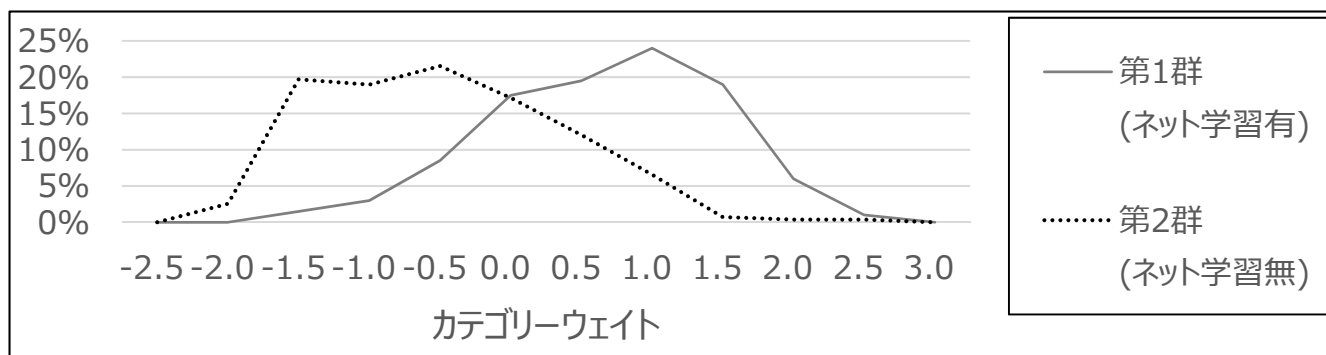


図 判別グラフ

4. 調査結果 ——学習のためのネット利用有無に与える影響の特徴——

9/10

・モデルのカテゴリーウェイトからは、学習のためにインターネットを利用をしている子どもの特徴として、スマホやタブレットのみではなくパソコンを併用し、親子間でのメッセージのやりとりやYouTubeを適度に利用している子どもが学習や調べものなどにインターネットを有効に活用している傾向が伺えた。

カテゴリーウェイト ≥ 0.35 の項目

中学生、特に女子

パソコンを含みICTを利用

親子間メッセージ頻度は週に2,3回

YouTubeは毎日1時間、もしくは毎日2～3時間くらい

No.	アイテム名 [偏相関係数, 説明変数の分類]	カテゴリー名	カテゴリーウェイト (学習のためのネット利用) 無 $\leq$ $\geq$ 有	
1	子どもの学年・性別 [0.35, 基本属性]	小1～3[男](n=77)	-0.77	
		小1～3[女](n=76)	-0.64	
		小4～6[男](n=80)	-0.08	
		小4～6[女](n=78)		0.07
		中1～3[男](n=85)		0.37
		中1～3[女](n=78)		0.99
2	利用端末の組み合わせ [0.20, ICT利用状況]	スマホタブレットパソコン利用なし(n=91)	-0.12	
		タブレットのみ(n=69)	-0.11	
		スマホのみ(n=144)	-0.28	
		スマホとタブレット利用(n=62)		0.05
		パソコン含みICT利用(n=108)		0.52
3	親子間のメッセージ頻度 [0.17, ライフスタイル変数]	月に1回未満(n=238)	-0.22	
		月に2,3回くらい(n=75)	-0.01	
		週に2,3回くらい(n=89)		0.50
		週4回以上(n=72)		0.12
4	YouTube利用頻度 (子が回答) [0.16, ICT利用状況]	していない(n=140)	-0.26	
		1日1回より少ない(n=88)	-0.19	
		毎日30分くらい(n=89)		0.01
		毎日1時間くらい(n=83)		0.35
		毎日2～3時間くらい(n=74)		0.31
5	放課後の活動 [0.11, ライフスタイル変数]	塾・部活・習い事通いなし(n=60)	-0.41	
		習い事(学童)のみ(n=185)	-0.03	
		部活のみ、部活と習い事のみ(n=64)		0.08
		塾のみ、塾と部活のみ(n=83)		0.13
		塾と習い事(n=82)		0.17
6	オンラインゲームを する時間(子が回答) [0.11, ICT利用状況]	していない(n=269)	-0.15	
		1日1時間未満(n=122)		0.14
		毎日1時間以上(n=83)		0.28
7	親子間の対面の会話頻度 [0.06, ライフスタイル変数]	毎日1時間未満(n=58)		0.12
		毎日1時間以上2時間未満(n=102)		0.09
		毎日2時間以上5時間未満(n=186)	-0.10	
		毎日5時間以上(n=128)		0.02

(判別的中率 : 78.7%、相関比 η : 0.57)

1. 目的

スマホ利用の低学年化、学校へのタブレット利用拡大などの実態を踏まえ、小中学生のICT利活用が、子どもの生活に与えている影響を明らかにすることが求められる。
⇒本稿では学習や調べもののためにインターネットを有効に活用している小中学生とICT利用状況、ライフスタイル変数、基本属性との関係を分析



2. 調査・分析方法

関東1都6県の小中学生に人口構成比に応じて訪問留置調査を実施。「学校や塾の宿題について、インターネットで調べたり動画をみる」の回答により2群に分け、**基本属性、ライフスタイル変数、ICT 利用状況**を説明変数として、2群を判別するモデルを数量化理論第Ⅱ類によって作成。



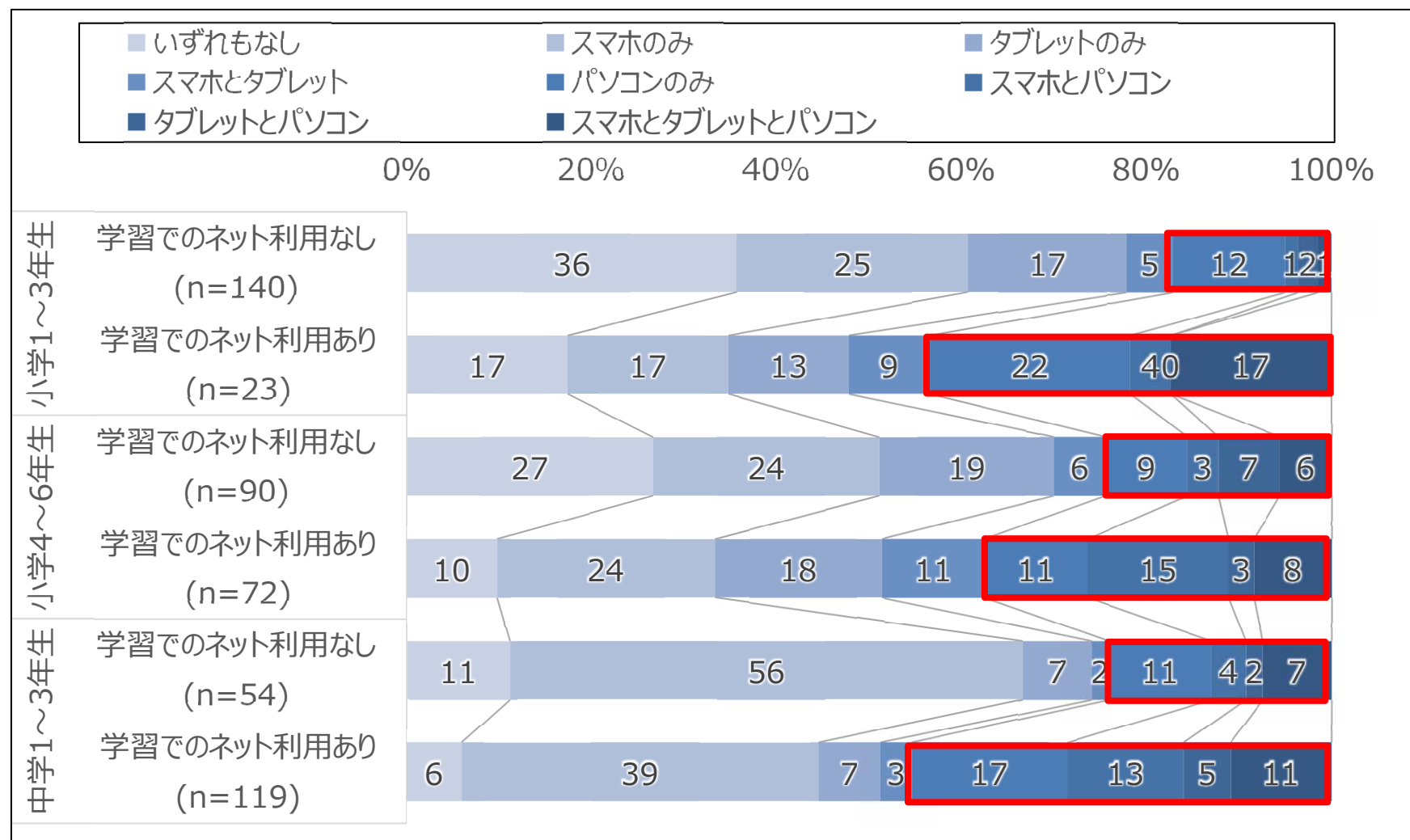
3. 分析結果

インターネットで調べたり動画をみる小中学生の特徴をICT利用やライフスタイルの観点で分析した結果、スマホやタブレットのみではなく**パソコンを併用し、親子間でのメッセージのやりとりやYouTubeを適度に利用**している子どもが学習や調べものなどにインターネットを有効に活用している傾向が伺えた。

以下参考資料

参考1_スマホ所有状況と学習でのネット利用有無

パソコン利用者の方がネットで学習をする傾向。

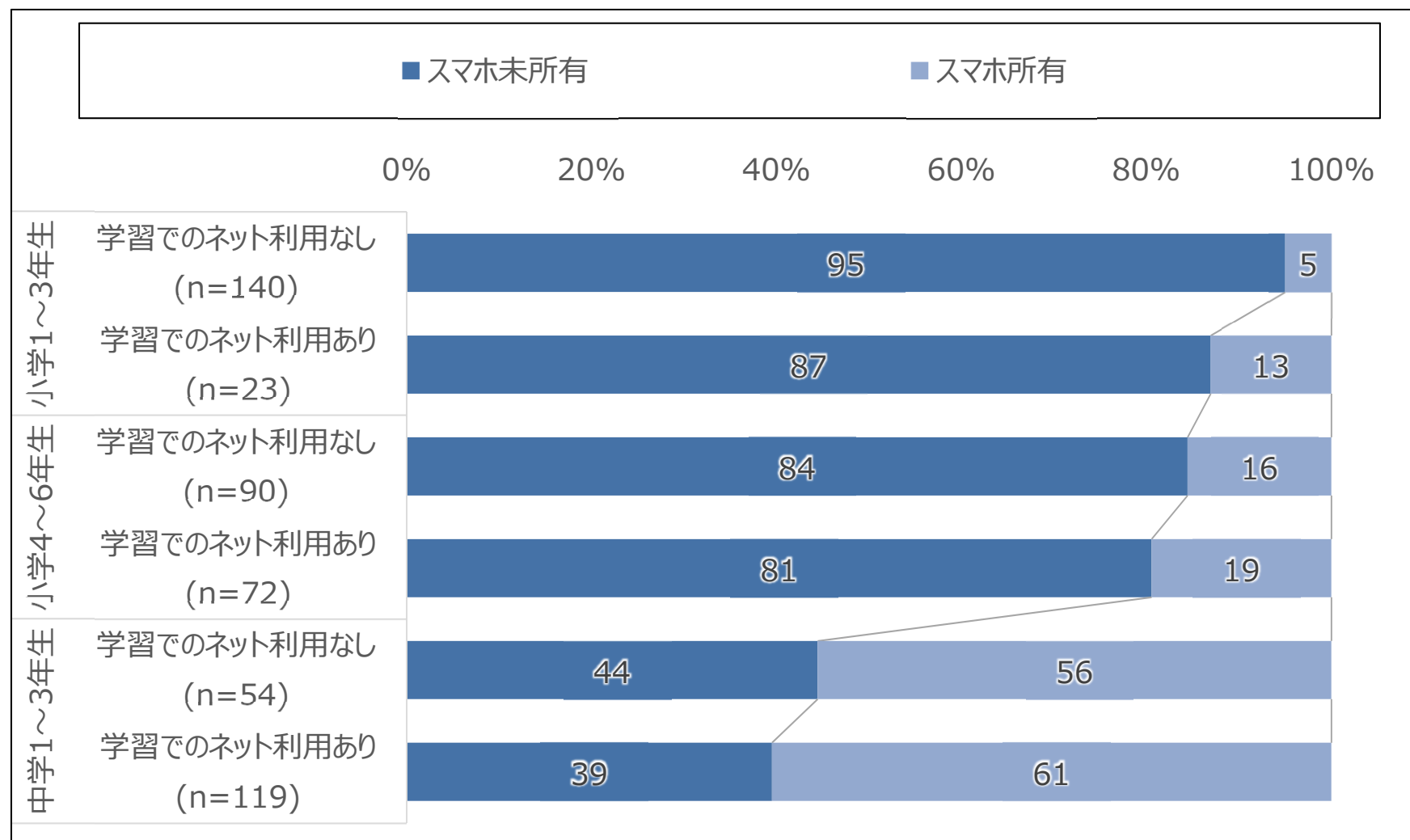


注：学習でのネット利用有無は関東一都六県在住の小中学生が回答し、端末所有状況はその保護者が回答。サンプルサイズ50以下は参考値。

出典：小中学生ICT利用調査2018(訪問留置)

参考2_スマホ所有状況と学習でのネット利用有無

スマホの所有状況は特段大きな違いはみられなかった。

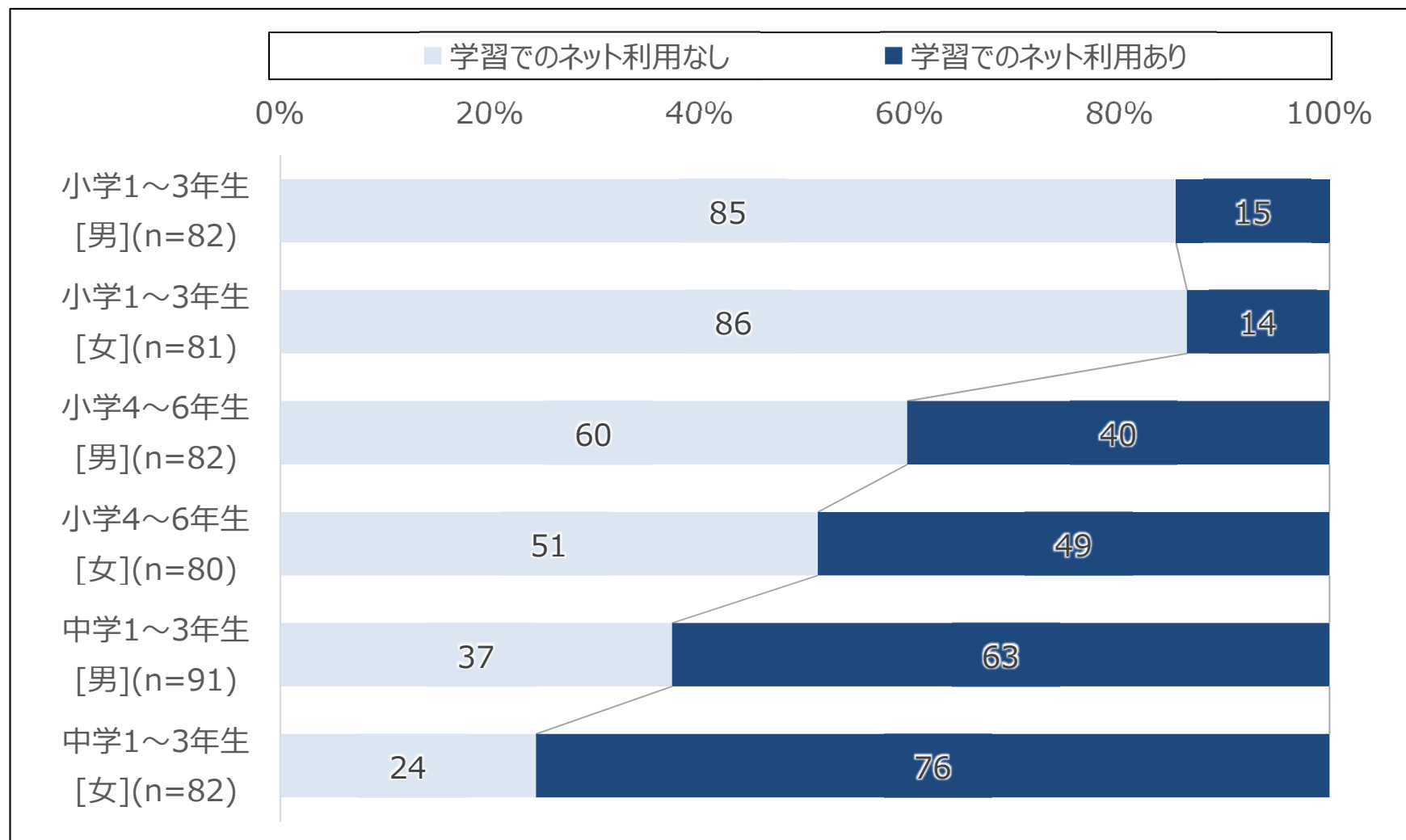


注：学習でのネット利用有無は関東一都六県在住の小中学生が回答し、端末所有状況はその保護者が回答。サンプルサイズ50以下は参考値。

出典：小中学生ICT利用調査2018(訪問留置)

参考3_スマホ所有状況と学習でのネット利用有無

中学生で特に女子の方が学習でのネット利用があると回答



注：学習でのネット利用有無は関東一都六県在住の小中学生が回答。

出典：小中学生ICT利用調査2018(訪問留置)